

マイクロファイナンスの意義とその課題

－グラミン銀行を事例とした論点整理－

上 西 英 治

Significance and Problem of Microfinance
Rearrangement of contention on the basis of Grameen Bank as an example

Eiji JONISHI

Summary

In accordance with rearranged basic issues on microfinance, which was promoted by Muhammad Yunus or the Nobel Peace Prize winner, and with discussions on group-lending, I consider significance of group-lending.

The study has revealed that group-lending is not the only factor for higher repayment rate in microfinance but other factors are required and that group-lending has negative effects. However, group-lending has also positive effects to alleviate asymmetry of information, eliminate moral hazard and reduce transaction costs through peer monitoring and peer selection. And this method is applicable to other fields including regional construction and regional policy.

Key words

Microfinance

Group-Lending

Peer monitoring

Peer selection

Moral hazard

Transaction costs

I はじめに

ムハマド・ユヌスが、1976年にバングラデシュにおいて始めた貧困層向けの小口融資はマイクロファイナンスと呼ばれ、貧困層の削減に有効であるとの理由で、世界60カ国以上で採用されている。この貧困層向けの小口融資により、ユヌスは、2006年にノーベル平和賞を受賞した。

マイクロファイナンスの特徴のひとつは、高い返済率にあり、グループレンディングと呼ばれる連帯保証制度が果たしている役割が大きいといわれている。

ここでは、ムハマド・ユヌスが始めたマイクロファイナンスについての基本的な事項を整理したうえで、グループレンディングに関する議論を紹介しながら、グループレンディングの意義について考えていきたい。

グループレンディングと同様な制度は、日本でもかつて講や無尽があったように、世界各国で見られる。そのことから、グループレンディングは、地域差や文化を超えた普遍的なシステムである可能性が強い。

現在、地域分権化の流れの中で、地域社会には、地域の潜在力を引き出し、地域を活性化していくことが求められている。そのためには、地域住民自ら金融を含めた新しいシステムを作っていく必要があり、グループレンディングから得られた知見は、そのシステム作りの手助けとなるであろう。

本文では、マイクロクレジットも含めた広い意味で、マイクロファイナンスを使用する¹。

II グラミン銀行方式のマイクロファイナンス

ここでは、マイクロファイナンスに関する基本的な事項を確認する。マイクロファイナンスが始まったバングラデシュの概要、マイクロファイナンスを考案したムハマド・ユヌスの経歴、最後に、グラミン銀行で行なわれているマイクロファイナンスについて述べていく。

(1) バングラデシュの概要²

バングラデシュ人民共和国は、東パキスタンから1971年に独立した。バングラデシュの面積は147,570 km²、総人口は138.6百万人、人口密度は1 km²当たり939人であり、人口密度が高い国の1つである(2005年)。国教はイスラム教である。国民の88%がイスラム教徒であり、98%以上はベンガル語で話す。国土は、隅々まで川でつながり、運河が張り巡らされている。かつて、バングラデシュは、ユーラシア大陸のデルタ地帯の穀倉地帯として豊かな地であり、黄金のベンガルと呼ばれていた。

バングラデシュの人々は、ベンガル意識が強い。この10年間で都会化が急速に進んでいるが、

依然として、農村部に 105.1 百万人（総人口の 75.8%）が住む。平均寿命は、男性が 64.5 歳、女性が 65.7 歳とほとんど変わらず、男女の比率は女性 100 人に対して男性は 106 人と男性の比率が高い（2005 年）。さらに、バングラデシュの成人識字率は、51.6% であり、男性が 57.2%、女性が 45.8% である（2004 年）。このことは、女性は弱い立場であり、女性に対する差別が大きいことを示している。

2005 年度の実質 GDP は 2 兆 8467 億タカ、一人当たりの GDP は 29,955 タカ（米ドル換算 447 ドル）であり、最貧国の一つである。また、2005 年度の対外援助受入額は、1092.6 億タカであり、世界最大の援助受入国でもある。

バングラデシュは、熱帯モンスーン気候に属し、大きく雨季と乾季に分かれる。蒸し暑い夏（3 月 -5 月）、梅雨（6 月 -9 月）、および温和で比較的乾いた冬（12 月 -2 月）の 3 回の主な季節がある。年平均気温は 26℃、年間降水量は 2,540mm である。バングラデシュは、GDP への農業のシェアがここ数年間にわたって減少しているが、農業が主要産業である。主な農産物は、米、小麦、ジュート、ジャガイモ、砂糖黍、紅茶、タバコなどであり、主要産業は、ジュート、織物、衣料品製造、紅茶、製糸業、セメント、肥料、軽工業などである。

(2) ムハマド・ユヌスの略歴

マイクロファイナンスの創始者であり、グラミン銀行総裁であるムハマド・ユヌスの略歴を紹介する。ユヌスの育った環境や受けた教育を確認することは、マイクロファイナンスの理念を確認することでもあるからである。

ユヌス（1998）によると、ムハマド・ユヌスは、バングラデシュの商業都市で最大の港があるチッタゴンで、1940 年に裕福な家庭に生まれた。父親は宝石店を営み、敬虔なイスラム教徒であった。メッカには三度巡礼に行っている。母親は力強く決断力に富み、ユヌスは母親に大きな影響を受けた。ユヌスは、フルブライト奨学金を得て、アメリカに留学し経済博士号を取得した。その後帰国し、バングラデシュのチッタゴン大で経済学部長をしていた。

ユヌスは、経験主義者であり、実用主義者であり、グローバルな自由主義経済を信じている。ユヌスは、イスラムの文化的素養をもち、アメリカで経済学を学んだ実用主義者である。バングラデシュはイスラム社会であり、貧しい人々に施しをすることは当たり前のこととされている。アメリカに留学し西洋風の近代主義を身につけたユヌスにとって、貧しい人々が街角にあふれ、施しを受けている場面を見ることは、耐え難いことだった。ユヌス（1998）には、頻りにギフトという言葉が出てくる。ユヌスは、ギフト（援助・施し）が当たり前のバングラデシュの社会に疑問を覚えたのであろう。

ユヌスは、2006 年のインタビューにて次のように述べている³。

質問：なぜ、貧しい人々に、お金を与えるのではなく、お金を貸すのでしょうか。

答え：お金を与えるのは、本当に困ったときに限るべきです。お金を返す必要がなければ、人々は

無責任になります。たとえば、もらったお金でお酒を買ってすべて飲んでしまってもいいわけです。借りたお金であれば、計画的に使わなければなりません。利子を含めて計画的に返済するために、有効な使い道を考えるはずです。人生はチャレンジです。

このように、ユヌスは、チャリティ（慈善）は、施された人から自尊心や自立心を奪うので、結局その人のためにならない悪いものであるという信念を持っている。このような信念がマイクロファイナンスの理念と重なっていくのであろう。

(3) グラミン銀行方式のマイクロファイナンス

a. マイクロファイナンスの原点

ムハマド・ユヌスは、1972年にバングラデシュに戻り、故郷のチッタゴン大学経済学部の学部長を務めていた。バングラデシュで大飢饉が起こった1974年に、ユヌスは、チッタゴン近郊のジョブラ村の調査をした。ジョブラ村で、ユヌスは、3人の子供を持つソフィアという女性に出会う。ソフィアは、高利貸しから5タカを借りて竹を買い、竹椅子を作っていた。竹椅子は高利貸しが5タカ50パイサで買い取る。ソフィアの一日の儲けはたったの50パイサ（2円ほど）である。彼女は5タカのお金がないばかりに貧困にあえいでいるのだ。調査をすると、ジョブラ村には、42世帯の人々が合計で856タカ（27ドル、4000円ほど）借りていたことがわかった。ユヌスは、彼らはずかなお金がないために貧困にあえいでいると考え、27ドルを42世帯の人々に貸した。驚いたことに、返済されないと思っていた27ドルは全額返済されたのだ。[ユヌス(1998)]

貧困にあえぐ42世帯に貸し付けた27ドルが、全額返済された経験により、ムハマド・ユヌスは、マイクロファイナンスのヒントをつかんだ。さらに、この経験が、マイクロファイナンスの制度作り、グラミン銀行設立へと進ませていった。

b. プロジェクトの推進

チッタゴン近郊のジョブラ村での経験をもとに、ユヌスは貧困者向けにマイクロファイナンスを行なうプロジェクトを立ち上げた⁴。

このプロジェクトの目的は以下の通りである。

- 貧困層と女性に金融サービスを提供する。
- 高利貸しの搾取から貧困層を守る。
- バングラデシュにおける農村の大量の失業者に対して、自営業の機会を与える。
- 農村で迫害されている女性に対して、自覚を促す。
- これまでの「低所得⇒低貯蓄⇒低投資」の悪循環を断ち切り、「小額融資⇒投資⇒収入増⇒貯蓄の増大、さらに、投資増⇒収入増加」の好循環に向かわせる。

このプロジェクトは、チッタゴン大学に隣接したジョブラ村などの村々で、1976年から1979年まで行なわれ、効果が確認された。1979年には、バングラデシュの中央銀行と政府系金融機関

の支援を受けて、バングラデシュの首都であるダッカの北にあるタンガイル地区に広げられた。さらに、タンガイル地区の成功により、このプロジェクトは、バングラデシュの多くの地区に広げられていった。

このプロジェクトは、政府の法律により 1983 年 10 月にはグラミン銀行となった。現在、グラミン銀行は、90%は借り手の貧しい人々、10%は政府により所有されている。

c. グラミン銀行

グラミン銀行の概要⁵

グラミン銀行は、1976 年から 7 年間行なわれたプロジェクトの準備期間を経て、1983 年に正式に銀行として設立された。グラミン (Grameen) はベンガル語で農村という意味である。

2007 年 7 月現在、グラミン銀行は、724 万人に対して融資をしており、そのうち 97%が女性である。グラミン銀行の支店は、2,452 あり、バングラデシュの農村の 94%をカバーし、79,152 の農村にたいして金融サービスを提供している。

貧しい人々に資金を貸し出すグラミン銀行プログラムは、世界銀行など多くの政府機関によって広がっている。

グラミン銀行は、信頼関係、責任、参加により成り立ち、バングラデシュの農村に住む貧しい人々に対して、無担保で小額融資をする。グラミン銀行では、小額融資が貧困を解決する道具として有効であり、それにより、従来の金融システムから阻害されていた最貧困層が、貧困から抜け出せられると考えている。

グラミン銀行の融資システム (Grameen credit) の特徴⁶

ユヌスは、貧困者にも生まれながらにして持っている潜在能力があり、貧困の原因は貧困層を取り巻く制度と政策であり、チャリティー (慈善行為、施し) は、貧困の真の解決策ではなく、貧困を解決するためには、各々の人間のエネルギーと創造性が必要であると説く。グラミン銀行は、貧困を解決するために金融サービスにアクセスできない貧困者や女性に対して、市中金利に近い金利で貸出をしている。

グラミン銀行の貸付金の返済率は 98% を超えており、この驚異的な返済率がマイクロファイナンスを世界中に広めた大きな要因である。

ユヌスはグラミン銀行の融資システム (Grameen credit) の特徴を以下のようにまとめている。

- グラミンクレジットを人間の権利として推進する。
- グラミンクレジットの使命は、貧困層中でも特に貧しい女性が貧困から脱する手助けをすることである。
- グラミンクレジットは、借り手とグラミン銀行との信頼関係の上に成り立ち、無担保で法的契約を結ばない。

- グラミン銀行の基本方針は、人々が銀行に行くのではなく銀行が人々のところへ行くことであり、グラミンクレジットは戸口でサービスを提供する。
- グラミンクレジットを受ける条件として、借り手は、借りてグループに参加しなければならない。
- グラミンクレジットは、以前のローンが返済済みであれば継続的に新しいローンを受けることが可能である。
- すべてのローンは毎週、または2週間ごとに返済しなければならない。
- 借り手は、返済義務と同時に、自発的に貯蓄をしなければならない。

坪井(2006)⁷は、グラミン銀行の融資システムを次のように特徴付けている。①貧しい人しか融資を受けられないこと、②メンバーになるには自分たちで5人グループを作ること、③担保はいらないが、5人で連帯して返済に責任を持つこと、④毎週集会所で開かれる集會に参加すること、⑤支店の行員が集會所に来ること、⑥自分たちで考える経済活動に融資を活用することの5点である。また、バングラデシュでは、イスラムの規律により女性の立場は極めて弱く、貧困層の多くは女性が占めていると指摘し、女性に貸すことの意義は、女性は男性と違い、計画的に使い、子供のために投資することが多いからである。グラミン銀行が融資した貧困層の家庭では、教育や医療が向上したという結果がでている。

マイクロファイナンスが成功した背景として、バングラデシュの農村では金融市場にアクセスする手段が少なく、既存の金融機関が農村部の貧困層や女性には融資をしてこなかったことが挙げられる。農村の貧困層や女性がお金を借りるには、地元の高利貸しに借りるしか方法がなく、市場金利の10倍を超える年率100%から200%の高金利で借りるしかなかった。

d. 世界に広がるマイクロファイナンス

ムハマド・ユヌスによって始められたマイクロファイナンスは、発展途上国はもちろんアメリカなど先進国までに世界中で行なわれている。マイクロファイナンスは、この30年の間に様々な試行錯誤が行なわれ、貧困撲滅の有力なプログラムとして続けられ、世界各国に広がっている。

2005年12月31日現在、世界では3,133のマイクロファイナンス機関が活動して、1億1326万人に対して金融サービスを行なっている。そのうち貧困層が8194万人であり、これらのうち、女性は6899万人、84.2パーセントである。1家族5人と仮定すると4億1000万人に金融サービスを提供していることになる⁸。

Ⅲ グループレンディング

マイクロファイナンスは、貧困削減の重要なツールとして、世界各国で採用されている。この理由として、マイクロファイナンス機関によって貧困層に対して貸し付けられた小口融資の返済率

が、高いことが大きな理由の一つである。仮に、マイクロファイナンスが貧困削減に効果があったにせよ、貸出金の返済率が低くとどまっていたのであったならば、マイクロファイナンスはこれまで広がってはいないであろう。つまり、マイクロファイナンスというシステムが、貸付金の高い返済率により、経済的に採算の合うシステムとなったのである。

マイクロファイナンス機関によって達成されている貸付金の高い返済率の要因について、様々な議論がされてきた。現在、マイクロファイナンス機関は、高い返済率を達成するために、返済実績により徐々に融資額を増加させる方法、担保をとらない代わりにグループ保証で返済を促す方法、貯蓄の奨励、小額の頻繁な返済方法などを採用している。この方法の中で、グループを作り連帯保証をするグループレンディングが、大きな役割を示している一つといわれている。

ここでは、グラミン銀行が始めたグループを形成して貸付金の返済を促す融資制度についての議論を進めていく。グラミン銀行のグループを形成しての融資方式は、グラミン・モデル（グラミン・クラシック・モデル）として世界各国で採用されている。しかし、グラミンモデルだけではないモデルも存在する。ここでは、グラミン銀行の融資システムに採用されている連帯責任についての議論をさらに詳細に述べる。

(1) グラミン銀行のグループレンディング

a. グラミン・クラシック・システム

グラミン銀行の顧客は、ほとんどが農村に住む貧困層であり、そのうち女性が95%を占めている。すでに述べたように貸付金の返済率は98%を超えている。グラミン銀行の貸付・回収システムは、1976年から試行錯誤のなかで随時改良を重ね、2002年に貸付制度を変更するまで使われた。このシステムはグラミン・クラシック・システム (Grameen Classic System GCS) と呼ばれ、世界各国でマイクロファイナンスの普及モデルとして使われた。

グラミンクラシックモデルは、小口融資をするときに、担保の代わりにグループ貸付をしたことに大きな特徴がある。

グラミン銀行から融資を受けるには、血縁関係がなく経済・社会的背景が同じである信頼できる5人のグループを作ることが必要条件である。5人のグループができると、グラミン銀行で1週間から2週間の研修を受ける。研修が終了すると、グループ内で相談して、最初に5人のメンバーの中でリーダーを除く2人に融資をする。この2人のメンバーが、6週間きちんと返済ができると次の2人に融資をしていき、最後にグループのリーダーが融資を受けることになる。さらに、メンバーには1週間に一度ある集会への集積を義務付けられる⁹。

ユヌス(1998)¹⁰は、担保をとらずにグループ制を導入した理由について、①貧しい人々がグループの一員になれば、グループの支援が得られ、同時にグループからの圧力も受けることになり、グループ内の競争意識が高まり目標達成の意識が高まる、②グループを組むことにより相互チェックが行なわれるので、行員の手間が省ける、③融資が認められるにはグループのメンバー全員の賛成が

必要であり、グループは融資に対する道義的責任を感じることになる、と述べている。

グラミン・クラシック・システムの返済方法

ユヌスは、ローンの1回当たりの返済方法を小額にし、さらに返済方法をできるだけ簡略化した。

- ローンの期限は1年間
- 毎週一定額を返済
- 返済はローンを借りた1週間後から開始
- 利率は20%
- 返済額は1週間に2%で50週間
- 利子の支払額は1000タカのローンに対して1週間に2タカまで

b. グラミン総合的システムへ変更

グラミン銀行は、2002年にこれまでのグラミン・クラシック・システムをグラミン総合的システム(The Grameen Generalised System GGS)に変更した。グラミン銀行から融資を受けるには、家族以外の5人のメンバーを組むことは前回と同様である。

グラミン総合的システムの特徴は次の通りである¹¹。

1. ベーシック・ローンとフレキシブル・ローン(flexi-loan)が組み合わさっていて、返済が困難になるとベーシック・ローンから返済が緩やかなフレキシブル・ローンに移ることができる。返済は連帯責任ではなく、個人の責任となった。
2. 借りる人の要望にあわせて、ローンの額、返済期間、返済方法を定めることができる。
3. 貯蓄を重視し、個人貯蓄や、長期の定期積立貯金である年金貯蓄のサービスを提供している。
4. 最も貧しい人々の加入を推奨している。
5. 今までは、5人グループを自分自身で作るか、5人グループに欠員がなければグラミン銀行に加入できなかったが、今では新しい5人グループができるまで、既存のグループに6番目のメンバーとして加入できるようになった。

Yunus(2002)は、フレキシブル・ローンの利点を、借り手に対してベーシック・ローンからの出口を提供することにより、銀行と借り手間の緊張関係を少なくすることと、借り手グループ内で緊張関係を少なくすることの2点をあげている。

借り手が、事業に失敗したり、病気になったり、自然災害に遭って、ベーシック・ローンが返せなくなった場合は、借り手は、フレキシブル・ローンに変更することができる。フレキシブル・ローンに変更することによって、借り手は、返済期間の延長と返済金額の減額など、借り入れ条件の変更をすることができる。また、きちんと返済できるようになれば、ベーシック・ローンに戻ることができる。つまり、借り手がベーシック・ローンを返せなくなった場合は、グループから離れ、返

済ができれば、グループに戻るることができるのである。

(3) グループレンディングに関する議論

マイクロファイナンスが世界中に広がった大きな理由は、100%近い高い返済率である。逆に言うと、マイクロファイナンスによる小口融資の返済率が低かったのであれば、マイクロファイナンスは成立しなかったのである。

グラミン銀行の成功の要因のひとつに、借り手をグループ化するグループレンディングが挙げられている。借り手をグループ化することにより、借り手内で相互監視が行なわれ、モラルハザードが少なくなった結果、借り手の返済率が高くなるということである。しかし、近年の研究では、グループレンディングによって高い返済率が行なわれているのではないことや、繰り返し融資する制度や預金制度の重要性も指摘されている。ここではグループレンディングに関する議論を、経済学や社会学などの観点から整理する。このグループレンディングの手法は、古くから行なわれているものと似ているところも多い。また、地域づくりという面からも興味深い手法であり、応用が可能であるとも考えるからである。

a. グループレンディングのメカニズム

三重野（2006）は、マイクロファイナンスで返済率を上げるために取られているグループレンディングのメカニズムについて、次のように整理をしている。

マイクロファイナンス機関は、返済率を高めるために、直接手法と間接手法を採っている。直接的手法は、毎週決まった日時に返済を求めるとに行員が借り手の元に出向いたり、返済のインセンティブをつけたり、借り手に貯蓄を行なわせることなどにより、資金の回収を確実にするためのスクーリングや強制履行、保険制度などを直接的に整備することである。間接的手法は、特定の仕組みを導入することにより、借り手の行動にインセンティブ付けを行なうことである。その代表的手法がグループレンディングである。

グループレンディングは、借り手に自主的にグループを形成させ、彼らの連帯保証の元で貸し出しを行なう方法であり、グループレンディングが機能する理由として、相互監視と相互選抜を挙げている。相互監視 (peer monitoring) とは、お互いに情報の非対称性の度合いの低い隣人たちに対して連帯保証を導入することにより、それぞれが監視し合いモラルハザードが防止されているという見方である。相互選抜 (peer selection) とは、グループを組むことにより、返済の可能性が低いリスクの高い借り手が排除されるという見方である。この二つの理由により、高い返済率が達成されるのである。

b. グループレンディングの長所と短所

プラネット大学「マイクロファイナンスの基礎」によると、グループレンディングには、次のような長所と短所がある。

グループレンディングの長所

- 規模の経済—貸し手側では、より少ないオペレーティングコストでより多くの顧客を得ることができ、グループスキームはユニット毎の取引費用を低く維持しながら貸手の規模の経済を達成することができる。
- 範囲の経済—同じグループの仕組みを通してより多種多様なサービスを提供できる。
- 情報の非対称性の緩和—グループメンバーの移動やふるい分けを行うことで、メンバーの自主選択による情報の非対称性が生じていても、より多くの顧客に到達することができる。
- 自主的なグループ選択によるメンバーのふるい分けと確認—グループメンバーは、連帯責任を負い、貸し付けを受けられなくなる可能性があるため、慎重にメンバーを選ぶ。
- 高い返済率—特にグループのペナルティとインセンティブが融資条件に組み込まれている場合、ピア・プレッシャーと連帯責任によって、返済率が高くなる。
- モラルハザードの減少—グループ間のモニタリングとピア・プレッシャーによって、モラルハザードが減少する。
- 相互サポートとアドバイサーグループを通して行われるので、効率的である。
- グループ保証—グループ保証をすることにより、担保が不要となる。
- 他のグループスキームとの親密性—マイクロファイナンスを採用しようとする地域に、回転式貯蓄信用組合 (Rotating Credit Associations: ROSCAS) などが既に存在している場合には、その制度が利用できる。

グループレンディングの短所

- 集団保証—グループでの保証を維持するために、グループメンバーはほとんど同じ規模の融資を借り受ける。もしメンバーの一人の事業により大きな成長が見込め、大きな融資が必要となると、他のメンバーによる保証は不可能となる。メンバーの一人が返済不能になると、他のメンバーが負担しなければならなくなる、もしくは次回以降の融資へのアクセスを失ってしまう。
- 返済率—グループローンはある特定の危機があった年には個人ローンよりも低い返済率を記録することがある。また、グループの幾人かの返済が困難になった場合、グループ全体が崩壊し、ドミノ効果を起こすことがある。
- その他の批判—他のグループメンバーの無責任な未返済によって金銭的に罰則を受けるよりか、個人ローンのほうがよいという批判がある。グループローンの手法は存続可能なグループ構築のために前もって高いコスト（特に時間）を支払う必要があるとも言われている。

c. グループレンディングに対する批判

グループレンディングは、借手手をグループ化することによる相互監視や相互選抜によって、返済率を上げている。しかし、個人貸付とグループレンディングとの返済率の違いがないという結

果や、グループレンディングの弊害などが指摘され、批判も多い。主な批判は次の通りである。

① 個人貸付とグループレンディングの差がない。

Kono (2006) は、ベトナムで行なった実験において、グループ貸付のほうが個人貸付よりも返済率が低かったことを示し、理由として、自分が払わなくとも他のメンバーが払ってくれるのを見越してデフォルトする「ただ乗り」が頻繁に発生したことをあげている。このように、相互監視が効率的に機能しない場合が指摘されている。

また、小田 (2007) は、グループレンディングは、グループ・メンバー間に連帯債務関係をもたらすことを通じて、逆選択、モラル・ハザードといった企業金融の問題を解決・緩和する可能性がある。しかし、この主張はメンバー間の情報対称性などの強い仮定に支えられており、また、必ずしも実証結果によって支持されていないと、グループレンディングに対する疑問点を指摘している。

鈴木 (2006) は、文化的な差異について論及し、グループレンディングを行っている金融 NPO も米国には存在するが、米国の国民性に合わないことなどから、グループ貸付を行っていた金融 NPO の多くは、個人を対象とした融資に切り替え、グループ貸付を現在も行っているのは金融 NPO の 14.5% に過ぎないと指摘している。

② グループレンディングは、社会的制裁が強まるので、弊害が多い。

グループのメンバーがデフォルトを起こしたときのメンバーが行なう制裁が、グループレンディングの場合、通常の貸付よりも厳しくなる可能性がある。貧困層にとって社会的基盤は、生存のために不可欠なボトムラインであり、社会基盤からの断絶は生存の危機に及ぶこともあるだろう。

このことは、グラミン銀行が、2002 年に、1976 年から採用していた「グラミン古典的システム」から「グラミン総合的システム」に変更したことからもわかる。理由として、メンバーがデフォルトすると、他のメンバーは追加的な借入ができなくなるため、グループ内での緊張が強まったこと、つまりメンバーによる社会的制裁の強さを、挙げている。新しいシステムでは、借り手が、ローンを返せなくなった場合には、フレクシールローンに変えることができるようになり、メンバーから束縛を離れることができるようになった。

③ 相互選抜による最貧困層の排除。

グループレンディングは、借り手にとって、資産や収入の低いものを排除する相互選抜のために、最貧困層が排除されているという主張がなされている。伊藤 (1999) は、グラミン銀行の融資は、一定の貯蓄能力を持つ貧困世帯には貧困緩和の手助けとなるがそれ以下の世帯は排除されてしまう傾向にあると結論付けている。

④ グループレンディングは、コストの移転。

マイクロファイナンスにおいては、貸出額が小額なため、借り手の正確な情報を入手することや貸出後のモニタリングを行うことが費用から見て困難である。そのため、貸手と借り手の間に情報の非対称性が生じる。グループレンディングは、貸手の情報入手やモニタリング費用を、借り手をグループ化することにより、費用を貸手側から借り手側に移転するシステムである。つまり、情報

の非対称性を解消するために、借り手側の費用を増大させるのである。

⑤ 直接的手法に効果があるとの主張

グループレンディングを用いない個人貸付でも、高い返済率を保つマイクロファイナンス機関の存在が指摘され、グループレンディングよりも直接的手法に効果があるという主張がなされている。返済日に行員が直接出向くなどの強い資金回収体制をとること、少額を短い間隔で返済する (frequent repayments) こと、初回の融資額は少ないが返済利することにより融資の逐次的拡大 (Progressive Lending) を行なうことなどが、高い返済率の要因であるとする。

IV グループレンディングの今日的意味

マイクロファイナンスの高い返済率に焦点を当て、その中でグループレンディングについて様々な議論を整理した。

明らかになったことは、マイクロファイナンスの高い返済率の要因は、グループレンディングだけではなく、他の要因にも求められるということである。グループレンディングの持つ弊害も指摘された。事実、グラミン銀行も、2002年に融資システムを変更して、グループレンディングから緩やかなグループ制に変えている。

しかし、マイクロファイナンスにおけるグループレンディングの意義は大きい。経済的な面から見ると、グループレンディングは、相互監視と相互選抜により、情報の非対称を少なくしモラルハザードを解消させ、取引コストを低下させる効果がある。また、グループレンディングは、文化環境や経済環境が違ふ地域での行なわれており、この手法は、地域づくりや地域政策などの他の分野にも応用が可能である。

グループレンディングを、地域の活性化という視点から見ると、興味深いシステムであることがわかる。グループレンディングでは、血縁関係のない地域の共同体の中から、自主的にメンバーを選ぶところに特色がある。グループレンディングは、地域住民を金融の面から絆を固く結び付けるが、返済がなされないと当該住民の生活そのものを破壊しかねない負の面を持っている。しかし、組織を硬く結びつける効力も否定できない。地域活性化のために、グループレンディングの手法を取り入れて、緩やかな強制力のあるシステムや組織作りをすることが必要ではないだろうか。

日本では、協同組合、商工会、町内会など地域に根付いた組織が多い。地域を活性化するためには、これらの地縁的で互助的な組織に対して、マイクロファイナンスで使われている手法を適用することを考慮すべきであろう。

(じょうにし えいじ・高崎経済大学大学院地域政策研究科博士後期課程)

マイクロファイナンスの意義とその課題

注)

(Endnotes)

- 1 岡本(1999)は、マイクロファイナンスを次のように定義している。マイクロファイナンスとは、貧困層や低所得者を対象に、貧困緩和を目的として行なわれる小規模金融のことである。途上国の貧困緩和を目指した小規模金融については、小口信用貸しを強調しマイクロクレジットが使用されていたが、近年では、貯蓄制度を含めた持続性のある小口金融制の重要性を強調するためにマイクロファイナンスが一般的になりつつある。
- 2 Statistical Pocket Book Bangladesh 2006. ホームページ
<http://www.bbs.gov.bd/index.php>. 2007年8月28日確認
- 3 2006年10月29日18時放映 NHK海外ネットワーク「人の想像力を生かせ！ノーベル平和賞・ユヌス氏が語る」より。
- 4 Grameen Bank ホームページ <http://www.grameen-info.org/index.html> 2006年8月26日確認
- 5 Grameen Bank ホームページ <http://www.grameen-info.org/index.html> 2006年8月26日確認
- 6 Yunus, Muhammad. What is Microcredit? 2007.
<http://www.grameen-info.org/index.html> 2007年8月27日確認.
- 7 坪井ひろみ(2006)『グラミン銀行を知っていますか』東洋経済新報社 P54～60
- 8 Microcredit Summit Campaign Report. 2006. <http://www.microcreditsummit> 2007年9月2日確認.
- 9 渡辺龍也『南からの国際協力』1997. 13～34. 岩波書店.
- 10 ユヌス・ムハマド、アラン・ショリ『ムハマド・ユヌス自伝、貧困なき世界を目指す銀行家』(猪熊弘子訳). 1998. 147-154. 早川書房
- 11 坪井ひろみ『グラミン銀行を知っていますか』2006. 141～143 東洋経済新報社

参考文献

- 伊東早苗 グラミン銀行と貧困緩和. 岡本真理子・栗野晴子・吉田秀美編『マイクロファイナンス読本』1999. 125～134. 明石書店.
- 岡本真理子・栗野晴子・吉田秀美編『マイクロファイナンス読本』1999. 明石書店.
- 小田圭一郎 マイクロファイナンス-グループレンディングの経済合理性とその限界. 日経研月報 3:2007. 70～73.
- 鈴木正明 小企業融資を手がける北米のNPO-米国の金融NPOを中心に-. 国民生活金融公庫調査季報 77: 2006. 33～50.
- 坪井ひろみ『グラミン銀行を知っていますか』2006. 東洋経済新報社
- プラネット大学. マイクロファイナンスの基礎.
<http://www.planetfinance.or.jp/planet-university>. 2007.9.5
- 三重野文晴 マイクロ・ファイナンスの金融メカニズム. 絵所秀紀・穂坂光彦・野上裕生編『貧困と開発』2004. 139～158 日本評論社
- ユヌス・ムハマド、アラン・ショリ『ムハマド・ユヌス自伝、貧困なき世界を目指す銀行家』(猪熊弘子訳). 1998. 早川書房
- 渡辺龍也『南からの国際協力』1997. 13～34. 岩波書店.
- Grameen Bank ホームページ. <http://www.grameen-info.org/bank/index.html>. 2007.8.26
- Kono, Hisaki. Is Group Lending A Good Enforcement Scheme for Achieving High Repayment Rates? Evidence from Field Experiments in Vietnam. IDE Discussion Paper No.61. 2006.
- Microcredit Summit Campaign Report. 2006. <http://www.microcreditsummit> 2007.9.2
- Statistical Pocket Book Bangladesh 2006. <http://www.bbs.gov.bd/index.php>. 2007.8.28
- Yunus, Muhammad. Grameen Bank II Designed to Open New Possibilities. 2002.
<http://www.grameen-info.org/bank/bank2.html>. 2007.9.11
- Yunus, Muhammad. What is Microcredit? 2007.
<http://www.grameen-info.org/index.html> 2007.8.27

